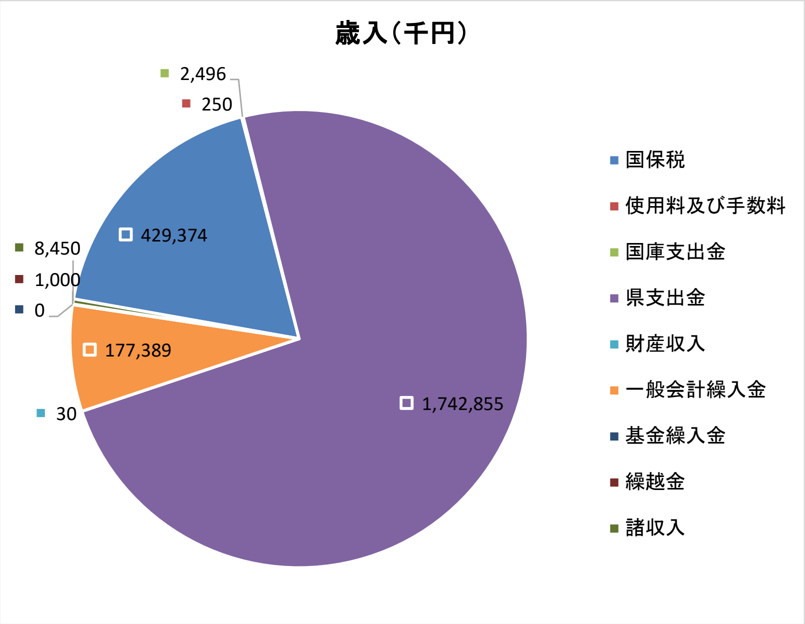
資料　１－２

# 令和2年度　国民健康保険特別会計予算　【概要】

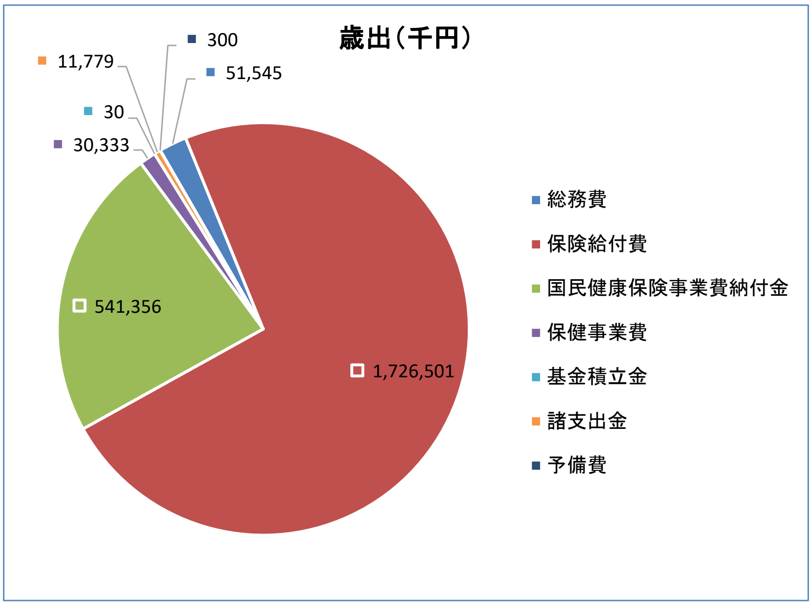
## 【歳入】

| 内　　容 | 予算額(千円) | 構成比率(%) |
|---|---|---|
| 国保税 | 429, 374 | 18. 18 |
| 使用料及び手数料 | 250 | 0. 01 |
| 国庫支出金 | 2, 496 | 0. 11 |
| 県支出金 | 1, 742, 855 | 73. 79 |
| 財産収入 | 30 | 0. 00 |
| 一般会計繰入金 | 177, 389 | 7. 51 |
| 基金繰入金 | 0 | 0. 00 |
| 繰越金 | 1, 000 | 0. 04 |
| 諸収入 | 8, 450 | 0. 36 |
| 合　計 | 2, 361, 844 | 100. 00 |




## 【歳出】

| 内　　容 | 予算額(千円) | 構成比率(%) |
|---|---|---|
| 総務費 | 51, 545 | 2. 18 |
| 保険給付費 | 1, 726, 501 | 73. 10 |
| 国民健康保険事業費納付金 | 541, 356 | 22. 92 |
| 保健事業費 | 30, 333 | 1. 28 |
| 基金積立金 | 30 | 0. 00 |
| 諸支出金 | 11, 779 | 0. 50 |
| 予備費 | 300 | 0. 01 |
| 合　計 | 2, 361, 844 | 100. 00 |



# 国民健康保険特別会計　令和２年度当初予算の概要【歳入】

| 内　容 | | | 当初予算額<br>（単位:千円） | 説　明 |
|---|---|---|---|---|
| **国保税** | | | 429,374 | 国保事業に要する費用に充てられるための徴収金です。<br>※H30決算445,949千円、R1決算見込み488,168千円 |
| | 一般分 | | 429,291 | （一般被保険者分） |
| | | 医療(現年) | 261,189 | 徴収金のうち医療給付に充てられるものです。 |
| | | 介護(現年) | 35,848 | 徴収金のうち介護納付金に充てられるものです。対象：第2号被保険者（40歳～65歳未満） |
| | | 後期(現年) | 125,104 | 徴収金のうち後期高齢者支援金に充てられるものです。 |
| | | 医療(過年) | 4,070 | |
| | | 介護(過年) | 1,090 | 前年度までに納付されなかった国保税分です。（滞納繰越分） |
| | | 後期(過年) | 1,990 | |
| | 退職分 | | 83 | |
| | | 医療(現年) | 40 | ●**退職者医療制度**：サラリーマンが高齢で退職した場合、退職後に国保に加入することが一般的ですが、医療の必要性の高まる時期に国保に加入することになり、その医療費の負担は主として国庫と他の一般被保険者に依存することになり、その緩和策として昭和59年10月に創設された制度です。この制度は被保険者の医療費の一部を被保険者保険等の拠出金から賄う点が最大の特色です。この制度は前期高齢者医療制度の発足とともに新規適用が停止され、最後の適用者が65歳に達する平成26年度をもって廃止されています。<br>●**退職被保険者**：国保の被保険者であって、65歳未満の方、原則として被用者年金の老齢（退職）年金の受給権者〔通算老齢（退職）年金にあって加入期間が20年以上又は40歳10年以上の者〕が対象となります。障害年金等の受給者で老齢（退職）年金の受給権を有している者も含まれます。 |
| | | 介護(現年) | 20 | |
| | | 後期(現年) | 20 | |
| | | 医療(過年) | 1 | |
| | | 介護(過年) | 1 | |
| | | 後期(過年) | 1 | |
| **使用料及び手数料** | | 督促手数料 | 250 | 督促状送付に伴うものです。（1件100円） |
| **国庫支出金** | | | 2,496 | |
| | **国庫補助金** | 災害臨時特例補助金 | 1 | 東日本大震災に伴う被保険者に対する保険税及び一部負担金の免除措置に係るものです。 |
| | | 国民健康保険制度関係業務事業費補助金 | 2,495 | 国保システム改修費用に係る国補助金です。 |
| **県支出金** | | | 1,742,855 | |
| | 県補助金 | **保険給付費等交付金（普通）※** | 1,718,720 | **市が支出する保険給付に対する交付金です。任意給付（出産・葬祭・結核等）分は除きます。** |
| | | **保険給付費等交付金（特別）※** | 24,135 | 市町村での保健事業関係等に対する交付金です。<br>【保険者努力支援、特定健診負担金、都道府県繰入金（2号）】 |
| **財産収入** | | 基金利子 | 30 | |
| **繰入金** | | | 177,389 | |
| | 一般会計繰入金 | 保険基盤(保険税分) | 68,741 | ●保険基盤安定制度：低所得者を対象とした保険料（税）軽減相当額を国、県、市が公費で補填する制度です。国(1/2)、県(1/4)負担金は、保険基盤安定負担金として一般会計に交付されます。 |
| | | 保険基盤(保険者分) | 42,858 | |
| | | 人件費 | 33,614 | 国民健康保険（賦課・徴収・資格・給付）関係職員に係る費用です。 |
| | | 出産一時金 | 4,480 | 出産一時金の財源として一般会計から繰り入れるものです。支出分×2/3 |
| | | 財政安定化 | 27,696 | 国保会計の安定化のために一般会計から繰り入れるものです。 |
| | | 計 | 177,389 | **※法定繰入分といわれるものです。** |
| | **基金繰入金** | | 0 | 国民健康保険基金を取り崩し繰り入れるものです。**令和元年度末残高　50,165千円** |
| **繰越金** | | | 1,000 | 前年度会計からの繰越金です。（令和元年見込み6,831千円） |
| **諸収入** | | | 8,450 | |
| | 延滞金 | | 1,850 | 国保税に係るものです。 |
| | 雑入(第三者、返納金、指定公費等) | | 6,600 | |
| 合　計 | | | 2,361,844 | |

## 国民健康保険特別会計　令和２年度当初予算の概要【歳出】

| 内　　容 | 当初予算額<br>(単位：千円) | 説　　明 |
|---|---|---|
| **総務費** | 51,545 | 国民健康保険事業の運営に係る費用です。 |
| 総務管理費 | 47,353 | |
| 一般職給与 | 33,614 | 国民健康保険（賦課・徴収・資格・給付）関係職員に係る費用です。 |
| 会計年度任用職員給与費 | 2,064 | 会計年度任用職員報酬等（庶務課算定額）※資格・給付関係 |
| 一般管理事業 | 9,436 | 事業の運営に係る一般管理費用です。 |
| 適正受診対策 | 1,149 | 医療費適正化のためのレセプト点検費用です。 |
| 連合会負担金 | 1,090 | 国保連合会への業務委託のための負担金です。 |
| 徴税費 | 3,764 | |
| 徴税事務費 | 3,764 | 国民健康保険税の徴収事務に係る費用です。 |
| 運営協議会事務費 | 428 | 国保運営協議会に係る費用です。（委員報酬など） |
| **保険給付費** | 1,726,501 | **保険給付に係る支出金の合計です。※○のものは費用を県からの補助金（普通交付金）で賄います。** |
| 療養諸費 | 1,497,956 | 療養の給付について保険者として負担する額です。 |
| ○ 一般療養給付費 | 1,475,350 | 療養費用（医療・薬剤等）の保険給付です。 |
| ○ 退職療養給付費 | 692 | |
| ○ 一般療養費 | 16,405 | 柔道整復師、補装具の費用などの保険給付です。 |
| ○ 退職療養費 | 30 | |
| ○ 審査支払手数料 | 5,479 | レセプト審査に係る費用です。※審査は国保連合会 |
| 高額療養費 | 220,603 | |
| ○ 一般高額療養費 | 220,193 | 医療費の1か月の自己負担額が限度額を超えた場合に、その超えた額を保険給付（保険者が負担）するものです。 |
| ○ 退職高額療養費 | 300 | |
| ○ 一般高額介護合算 | 100 | 世帯内の国保加入者について、1年間に「医療」と「介護」の両方に自己負担があり、その額が自己負担限度額を超えた場合、超えた額を保険給付（保険者が負担）するものです。 |
| ○ 退職高額介護合算 | 10 | |
| 出産育児一時金 | 6,720 | 被保険者の出産に対して給付するものです。1件当たり404,000円（産科医療保障制度に加入している医療機関等で出産した場合420,000円） |
| 葬祭費 | 1,050 | 被保険者の死亡に伴い給付するものです。1件当たり30,000円 |
| ○ 移送費 | 161 | 緊急的に入院、転院の必要性があって移送された場合に給付するものです。 |
| 結核給付金 | 11 | 被保険者が結核による療養の給付を受けた場合に被保険者が負担する額を給付するものです。 |
| **国民健康保険事業費納付金** | 541,356 | 【H30からの制度改正に伴い県に納付するものです。】<br>県が医療給付費等の見込みを立てた上で、公費等の拠出で賄われる部分を除き、市町村ごとに医療給付分、後期支援分、介護納付分について納付金額を決定します。市町村ごとの所得水準と被保険者数・世帯数により配分され医療費水準を反映させます。 |
| 一般医療給付費分 | 360,594 | |
| 退職医療給付費分 | 0 | |
| 一般後期支援分 | 132,506 | |
| 退職後期支援分 | 0 | |
| 介護納付金分 | 48,256 | |
| **保健事業** | 30,333 | |
| 特定健診等 | 15,926 | 特定健診・特定保健指導に係る費用です。対象者：40～74歳 |
| 健康増進プログラム | 897 | 医療費抑制のための健康増進、寝たきり予防の推進に関する費用です。 |
| 人間ドック | 13,510 | 人間ドック受診に対する助成です。<br>対象者：35歳以上　補助金額：日帰り20,000円　1泊2日25,000円　5歳毎の節目30,000円 |
| **基金積立金** | 30 | |
| **諸支出金** | 11,779 | |
| 保険税還付金 | 2,010 | 保険税還付金に充てるものです。 |
| 還付加算金 | 110 | 保険税の還付加算金に充てるものです。 |
| 指定公費負担返還金 | 30 | 高齢受給者（70～74歳）に係る医療費について特例措置（2割→1割）が取られています。特例分（1割）については国が負担するものですが、過誤等があった場合に返還するものです。 |
| 保険給付費等交付償還金 | 6,000 | 保険給付費交付金の前年度精算に伴う返還金です。 |
| 保険事業費納付償還金 | 3,629 | 事業費納付金（退職被保険者分）の平成30年度精算に伴う返還金です |
| **予備費** | 300 | 決算では０。 |
| 合　計 | 2,361,844 | |